

現行の改良増殖目標に対する委員からの御意見と今後の方向性について

—めん羊—

(●：委員意見に対する方向性、○：事務局提案)

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
全般	<ul style="list-style-type: none"> ① 羊肉の需要が堅調であるため、増頭意欲はあるが、自家繁殖では限界があり、能力も低下することから増頭の余地が限られている。 ② 種畜供給体制について、供給元となる牧場等の供給量は限られている。 ③ と畜先が限られている。 ④ 除草などめん羊の多面的な活用も必要であるが、飼養管理知識の浅い者等が増えると、衛生面等で国内全体に影響を及ぼす可能性がある。 ⑤ 内部寄生虫の駆除における薬剤耐性が問題となってきているが、それらのことを知らない獣医師も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 種畜の確保や飼養頭数の増加、指導者不足、飼養管理技術の普及等について課題として記述。

○ 能力に関する改良目標

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
産肉能力 繁殖能力	<ul style="list-style-type: none"> ① 提供された90日齢体重のデータは、NLBC十勝牧場のものであり、現場と比較して高いと感じる。現場の実態とかけ離れたデータをもとに目標を定めても生産者の理解が進まない。 ② 民間の牧場のほとんどが雑種を飼養しているため、サフォーク純粋種の数値をもとに目標を定めても現実味がないが、一定の目標値は必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>90日齢体重では、サフォーク純粋種だけでなく、他品種との交雑であるサフォーク系も含めて現場ベースでのデータによる目標値の設定を検討。</u>(※補足説明資料)

	<p>③ 純粋種ではなくて、サフォーク系などで目標を立てられないか。</p> <p>④ 飼育条件によって数値は大きくかわるので、いろいろな農場のデータを合わせた平均的なところをとるのが良い。</p> <p>⑤ 産子数の改良も必要という意味では、一腹当たり離乳頭数の数値目標は大切。</p>	<p>○一腹当たりの離乳頭数については、サフォーク系のデータはないことから、サフォーク純粋種のデータにより目標を設定。</p>
--	--	---

○ 体型に関する改良目標

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
	① 特に意見なし。	○前回と同様の記述でよいか確認。

○ 能力向上に資する取組

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
改良手法・繁殖技術等	<p>① 国内産の能力向上を図るためには、海外の優良精液の活用と人工授精技術の普及が重要である。</p> <p>② 人工授精の受胎率が低い背景として、技術者がいないことも挙げられ、技術の向上・人材確保が課題。</p> <p>③ 増体のほか、寄生虫に対する抵抗性の改良についても、優良精液の利用や人工授精の普及などの記述を組み込んでほしい。</p>	<p>● 国内めん羊の能力向上に向け、海外の優良精液の活用も含め、人工授精技術の向上、技術者の養成について記述。</p> <p>○ 優良な種畜の選抜等が可能となるよう、データ収集に努める。</p> <p>● 寄生虫への抵抗性等に配慮した交配に努めることについても記述。</p> <p>○ その他の項目について前回と同様の記述でよいか確認。</p>

○ 増殖目標等

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
	① 特に意見なし。	○ 前回と同様の記述でよいか確認。

現行の改良増殖目標に対する委員からの御意見と今後の方向性について

—山羊—

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
全般	<ul style="list-style-type: none"> ① と畜先が限られている。 ② 真剣にやっている生産者からすれば、ペット感覚で飼養する者がおり、飼養管理知識が浅いこと等で、衛生面等で影響を与える可能性があることが問題だと感じる。 ③ 困ったときに病気を診療できる獣医師が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 種畜の確保や飼養頭数の増加、指導者不足、飼養管理技術の普及等について課題として記述。

○ 能力に関する改良目標

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
乳成分及び乳量	<ul style="list-style-type: none"> ① 乳量だけではなく、乳脂肪分などもある程度確保しなければならない。 ② NLBC 長野支場は、NZ から能力の高い個体を入れており、乳量が多いため、農家にとって、目標値 600kg を達成することは困難。 ③ 乳量よりも乳質を大切にされた方が良い。乳脂肪分やたんぱくを高めてチーズの歩留まりを良くし、生産性を上げることが重要。乳脂肪分3%以上は保ちたい。 ④ 目標を乳量について定めるのではなく、乳質について定めることを検討できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳脂肪分や無脂肪固形分についても、改良要素の一つとして記述。 ○ 適切な目標設定が可能となるよう、データ収集に努める。 ○ その他の項目について前回と同様の記述でよいか確認。

○ 体型に関する改良目標

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
	① 特に意見なし。	○ 前回と同様の記述でよいか確認。

○ 能力向上に資する取組

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
改良手法・繁殖技術等	<p>① 海外から高能力な精液を導入してはどうかという声を聞く。しかし、人工授精を行うための人材確保が難しい。</p> <p>② 除草利用など、めん羊の多面的な利用に向け、粗飼料のうち何割を野草で補えるか研究しはじめたところ。なお、濃厚飼料を給与することと比較しているわけではなく、給与する飼料の選択は飼養者が考える話。</p>	<p>● 国内山羊の能力向上に向け、海外の優良精液の活用も含め、人工授精技術の向上、技術者の養成について記述。</p> <p>○ 改良手法として、血統登録頭数の確保や必要なデータ収集体制の構築、また改良素材として純粋種の確保及び利用に努めることを記述。</p>

○ 増殖目標等

項目	これまでの委員からの御意見等	今後の方向性
	① 特に意見なし。	○ 前回と同様の記述でよいか確認。